

# 茎数急増中。中干しの徹底で茎数過剰防止

## 1 生育概況(コシヒカリ 6/21現在)

現在の生育(指標値比)

平坦地	草丈:短い (90%)	茎数:並 (100%)	葉数:並 (+0.3)	葉色:並 (SPAD値+0.2)
中山間地	草丈:並 (103%)	茎数:やや少ない (83%)	葉数:並 (+0.3)	葉色:並 (SPAD値+0.1)

- 生育は進み、少なかった茎数は急増して、中山間地でも中干し時期となっています。
- また、平坦地や田植の早いほ場では茎数過剰となっているほ場も見られます。

## 2 調査結果（普及センター、JA調査ほ）

### (1)コシヒカリ

	場所	標高	田植	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			
				本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差	
平坦地	今熊 (浦川原)	16	5/12	42	102%	105%	533	株当 29.6	130%	140%	9.5	+0.3	+1.0	42.1	+4.1	+3.1
	飯室 (浦川原)	13	5/8	37	74%	93%	391	株当 24.4	77%	103%	9.2	-0.7	+0.7	40.2	-3.4	+1.2
	宮口 (牧)	71	5/19	28	78%	70%	214	株当 11.5	74%	56%	7.6	-1.2	-0.9	35.4	-6.6	-3.6
	平均			36	86%	90%	379	21.8	94%	100%	8.8	-0.5	+0.3	39.2	-2.0	+0.2
中山間地	安塚 (安塚)	80	5/8	42	90%	105%	578	株当 34.0	141%	152%	9.5	-0.3	+1.0	39.4	-2.1	+0.4
	和田 (安塚)	133	5/15	41	95%	103%	360	株当 17.3	95%	95%	9.4	-0.5	+0.9	38.4	+0.8	-0.6
	大島 (大島)	152	5/15	37	72%	93%	392	株当 19.9	66%	103%	8.7	-1.0	+0.2	40.5	-1.9	+1.5
	菖蒲 (大島)	337	5/20	39	85%	98%	253	株当 13.4	70%	67%	8.4	-0.7	-0.1	39.5	+2.2	+0.5
	高尾 (牧)	352	5/23	38	90%	95%	187	株当 9.5	53%	49%	8.1	-0.2	-0.4	37.5	-4.2	-1.5
	平均			39	85%	98%	354	18.8	84%	93%	8.8	-0.6	+0.3	39.1	-1.0	+0.1

### (2)つきあかり

	場所	標高	田植	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			
				本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差	
平坦地	長走 (浦川原)	19	5/8	40	60%	67%	430	株当 26.7	142%	116%	9.0	-0.9	-0.8	37.3	-7.4	-4.7
	宮口 (牧)	57	5/17	39	81%	65%	205	株当 11.2	75%	55%	8.4	-1.3	-1.4	39.2	-2.9	-2.8
	平均			40	70%	67%	318	19.0	110%	86%	8.7	-1.1	-1.1	38.3	-5.1	-3.7
中山間地	田麦 (大島)	310	5/15	37	-	86%	284	株当 15.5	-	86%	8.5	-	+0.7	39.4	-	-1.6
	高尾 (牧)	285	5/21	34	65%	79%	204	株当 10.1	60%	62%	7.8	-1.7	±0	40.0	-2.8	-1.0
	平均			36	69%	84%	244	12.8	72%	74%	8.2	-1.3	+0.4	39.7	-3.1	-1.3

## 3 今後の管理のポイント

- 遅植えや生育停滞したほ場でも田植後25日に茎数を確認し、遅れずに中干しを開始しましょう。
- 茎数が過剰となっているほ場も見られます。中干しを徹底して茎数過剰を防止しましょう。
- すでに中干しを実施しているほ場では、確実に溝切りを行うことで排水を促し、田面に幅1cm程度小ヒビが入る程度まで乾かして下さい。
- 切った溝は確実に排水口につなぎ、溝が戻った場合は再度切り直す等の手直しを行うことで中干し効果を高め、水を効率的に使用することができます。
- 「つきあかり」の1回目穂肥時期が迫っています。出穂期は前年並（平年並）と予想されます。遅れずに出穂の30~25日前に窒素成分で2.0~1.5kg/10a施用しましょう。

(稚苗5/10~15頃の移植で、出穂は7/26日頃、1回目の穂肥時期は6/26~7/1頃の見込みです。)

※天水田等では用水の確保状況に応じて中干し・溝切りを実施してください。

- 継続的な湛水でワキの発生が多くなっています。天水田等では、降雨による水の入れ替えや、除草機等での中耕により、ガス抜きをしましょう。